

ねえ、本当に、その…*ぎゅ*とさせる気なの？

…そう、本気なのね

借金の肩代わりをしてくれる救世主だと思って
アンタなんかに気を許したわたしがバカだったわ
いいわ、やってやるわよ！

ギキ
ギキ

ぎゅ
ぎゅ





ドクドク

…この前は後ろからだっただから
解らなかつたけど…
こ、こんな形状してるんだ…

ドクドク

ドクドク

ドクドク

ドクドク







な、なによ
この気持ち悪い
おちんちん…!?

細いの奥まで
突き刺さってくる……!



や、ちゅっしゅっ……ふっふっめっめるのよー…

①②は本当は③④⑤好きだからって……
⑥これはそういう問題じゃないでしょ!?

はっ

はっ

いっ

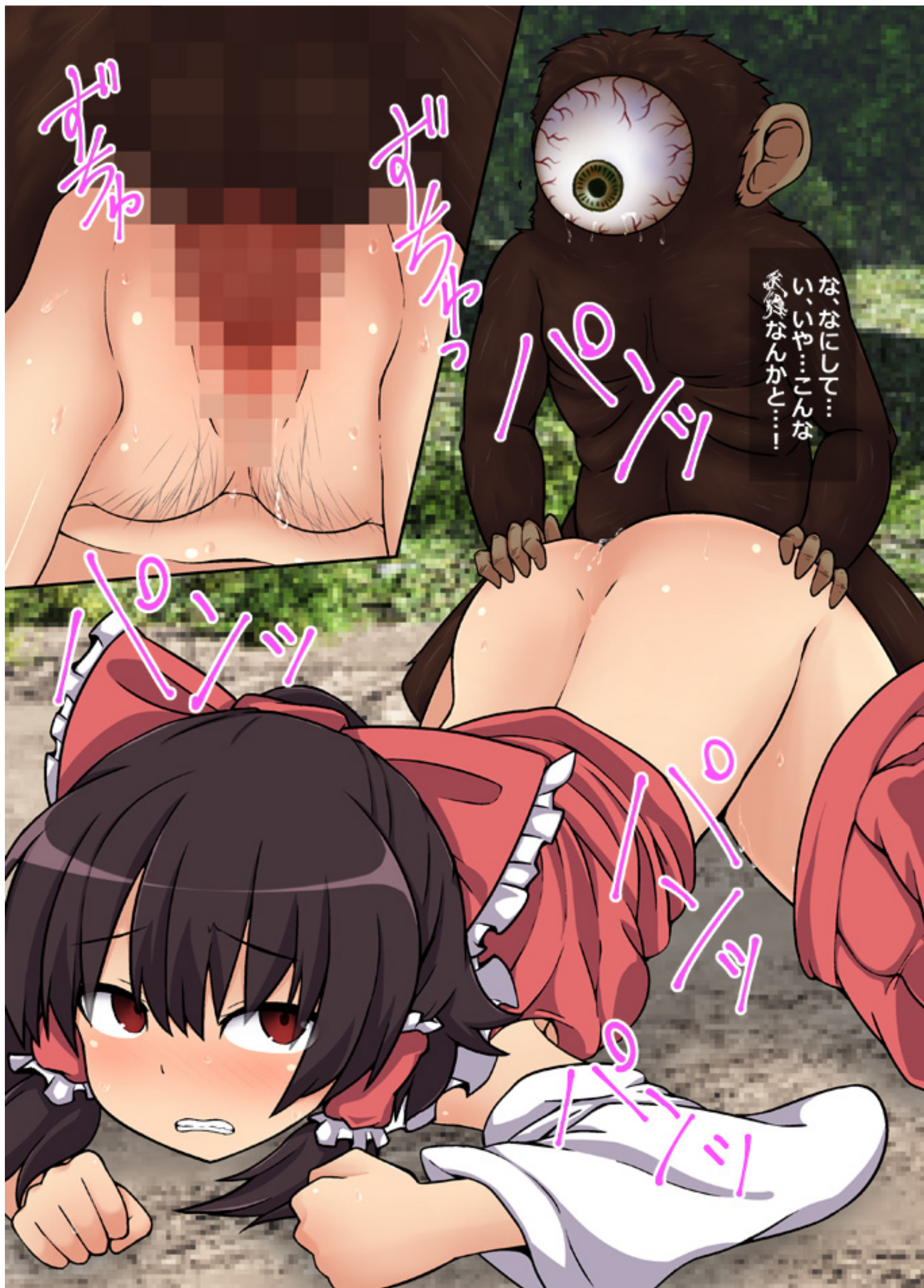
ちゅっ
ちゅっ
ちゅっ

ちゅっ
ちゅっ

ちゅっ
ちゅっ







な、なにして…
い、いや…こんな
変態なんかと…!

ずちゅ

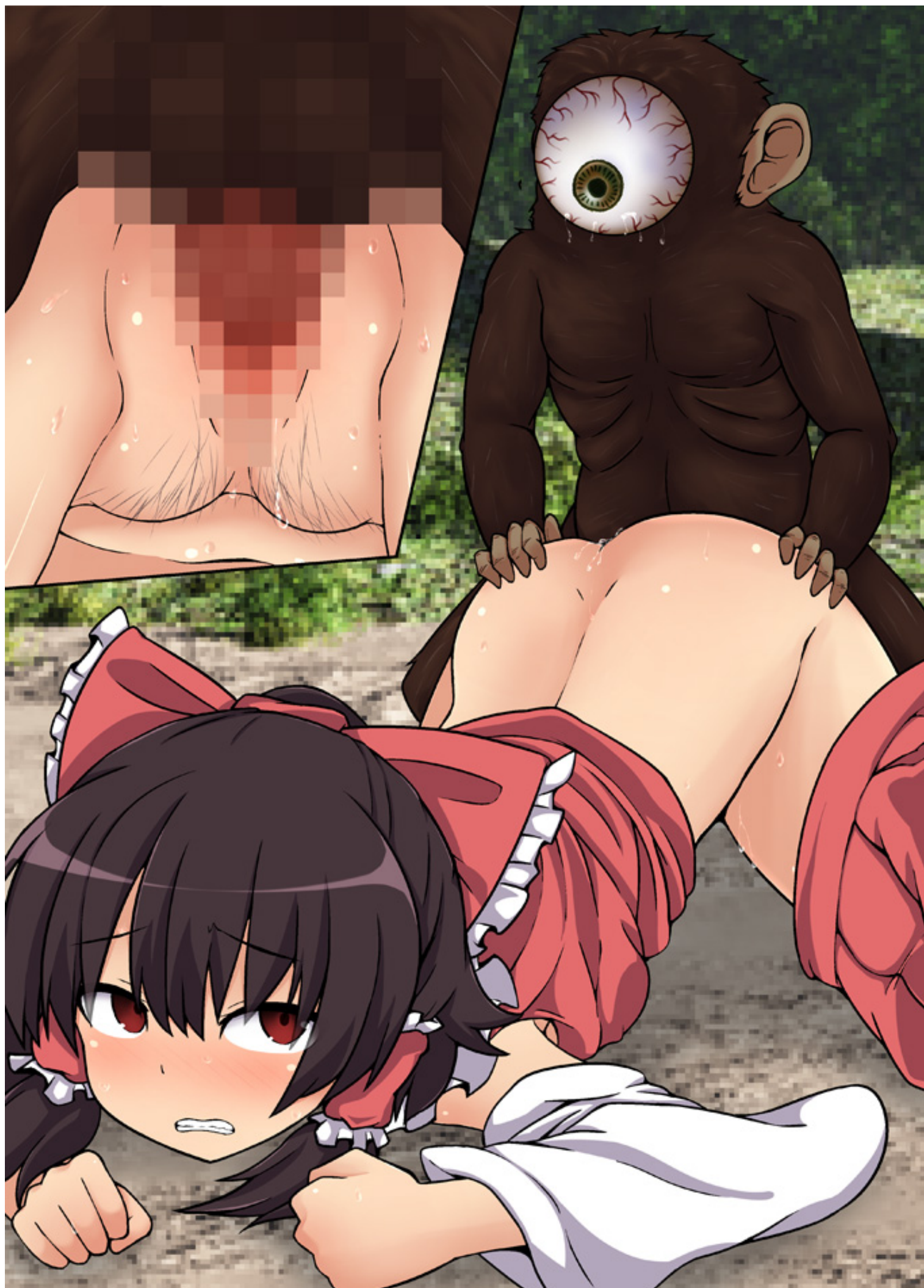
ずちゅっ

ゴゴゴ

ゴゴゴ

ゴゴゴ

ゴゴゴ



ん……！
体は人間より小さいくさに
アレのサイズと硬さだけは
一人前なんだから……！







こんなデカイの絶対
アソコ裂けちゃうって！

え…ちよ…ちよっと!?
何が来ても驚かないって言ったけど
流石にこれは無理よ！

びよん



あんたも見えないで
コイツどうにしかさないよう
ペットの面倒を見るのは
飼い主の義務なんですよ!?

はっ

はっ

ぴちゅっ

しゅっ

ちゅぽっ

あ……っ♡
ちゅっ、ちゅっ、ちゅっ
どいせぬしぬぬ……っ





【靈夢】「んー… な、なにさー」

魔獣退治に来た靈夢は、
名状し難き不定形生物に
押し倒されてしまった。

【靈夢】「は、離しなさいっ…」

魔物は靈夢を押し倒したまま、
下腹部を押し付ける。
ぬるぬるとした生殖器が靈夢の
割れ目を強引に愛撫する。

【靈夢】「な、なんで股間に体を押し付けてるの…」

こいつまさかっ…！ やめっ…！

異変に気が付いた靈夢は、
魔物を振りほどこうとするが、
魔物の体の一部は、
靈夢の割れ目へと入り込んでしまった。





【霊夢】「…ほら、今日も相手してあげる。
魔物を大人しくさせるのは、
博麗の巫女の仕事だからね」

魔物に犯された霊夢は、
すっかり快樂の虜となり、
その魔物を倒さずに、
森の中でかくまう事にした。

【霊夢】「準備出来てるから。
早く出てきて、
私を犯しなさい」

霊夢は四つん這いになり、
尻を森に向ける。
下着を付けていない割れ目は、
魔物の陵辱を期待して濡れており、
いやらしい雌の匂いを漂わせる。

《ガサガサガサガサ》

【霊夢】「んっ…♡
来た来たっ…♡」

森の奥から、魔物の瘴気と、
這いずるような足音が聞こえてくる。
魔物は獣臭い異臭を放ちながら、
霊夢の体に覆いかぶさってきた。

【霊夢】「っ…♡ は、はやくっ…♡
私の子宮を…かき回してっ♡」

霊夢の声に応えるように、魔物は生殖器を
霊夢の濡れた割れ目へと押し付ける。
霊夢は自ら腰を動かし、
魔物の生殖器が割れ目に入りやすいよう、
位置を調整していく。
そしてついに、魔物の生殖器が
霊夢の膈を貫き、体内へと入り込んできた。

